

原子力風土の改善のためにNPO-I O Jができること

Activities of NPO-IOJ Towards the Improvement of the Environment around Nuclear Power

| | | |
|------------|--------|--------------------------|
| NPO法人I O J | 井口 哲夫 | Tetsuo IGUCHI Member |
| NPO法人I O J | 衛藤 基邦 | Motokuni ETO Non-member |
| NPO法人I O J | 宮 健三 | Kenzo MIYA Member |
| NPO法人I O J | 釜田 真佐子 | Masako KAMATA Non-member |
| NPO法人I O J | 青野 千晶 | Chiaki AONO Non-member |

Abstract For the improvement of the social environment surrounding the nuclear power in Japan the better understanding by general public of the issues with regard to energy and relevant technologies as well as social and human factors is very essential. For this purpose IOJ (Innovation of Japan) was set up and formally certified as a non-profit organization by the Japanese Government in October 2003. This paper deals with its present activities and plan for the future as well as the idea, background and preceding activities which led to the establishment of the organization.

Keywords: Nuclear Energy, Environment, Education, International Relations, Technology
E-mail: secretariat@ioj-japan.org

1. NPO法人I O J設立の経緯

I O J (Innovation of Japan)「日本の将来(あした)を考える会」は、平成15年5月に設立総会が開催され、エネルギー・環境問題、教育や国際問題の解明と社会への提言に向けてのボランティア活動ベースの組織として正式に発足した。引き続き、会員の活動を組織立てて有効に生かしていくために、NPO(特定非営利活動)法人としての認証を得るための準備が進められた。

この総会に先立つ数ヶ月間、発起人の呼びかけに応じて、少なからぬ有志が「NPOとしての組織・活動のあり方」、「会員増強の手立て」、「財見通し」、「一般への呼びかけ、広報活動」等について議論がなされていた。その議論をもとに、NPO法改正を学び、手探りで必要書類等を整え、総会の翌月には認証のための申請に漕ぎつけた。その後、若干の曲折はあったが、事務局の精力的努力により平成15年10月にはNPO法人としての認証が得られた。

2. I O J活動の目的

2.1 個人と社会との架け橋

I O Jは日本の将来に向けて社会全体をよりよいものにするために、エネルギー・環境や教育に関わる、一つ一つの問題を自分のこととして捉え、一人ひとりが声をあげ、それを大きな民意として育て上げることを目的としている。言い換えれば、志を持った個々人の声を有機的に結集し、社会に働きかけていくことによって、原子力を始めとする科学技術に対する風土を、より合理的かつ妥当な判断が容易となるように変えていこうとするものである。

2.2 具体的な活動目標

上記の大局的な目標に向けて、I O Jは地方の問題、国全体に関わる問題各々について活動していく。当然のことながら、地方の問題と国全体の問題は常に深く関わっており、ここで述べた区分はあくまでも活動を円滑に進めていく上での方法論から生まれたものである。具体的には、次のような活動が考えられている。

1) 地方支部の活動

地域が抱える問題を積極的に解決していく。
・地域に根ざした教育の推進：地域性を生かした教育が子供の情操面や社会性を育む上で有効であることを例を挙げて示し、これまでの教育と併

用できるよう国及び自治体へ働きかけて実現を目指す。

・地方と都市部との情報格差の解消：地方の活性化のために、IT（情報技術）を浸透させるように、国及び自治体に働きかけて実現を目指す。

2) 本部の活動

わが国全体に関わる問題を摘出し、その解決をめざす。

・将来に向けた自前のエネルギーの確保：資源小国日本において、一人ひとりが原子力発電等のエネルギーに関する正しい知識を身につけられるよう専門家を交え、意見交換し、その結果をマスメディア等を通じて一般へフィードバックし、原子力や科学技術に対する風土の改善に資する。

・学力の低下問題の解決、教育の自由化の推進：参加型のプログラムを開発、実施し、若者の知力向上を目指す。また、専門家による独自の参考書、教材を作成し、個性を尊重した教育内容を提言する。

・国際感覚を持った若者の育成：国際的に通用する人材を育成するために、海外から専門家を招き講演会等を行う。

これらの課題のうち、特に原子力発電については、国・自治体、電気事業者、発電所立地地元住民というこれまでの枠組みに、第三者的な立場のNPO組織が加わることによって、一般市民の理解を獲得しながら、原子力発電の社会的受容度を高める活動を行う。

3. IOJの組織

会員は全国から、また広く官界、学会、産業界、一般の分野から募集する。会員には「会員」と「一般会員」の種別があり、後者の会費は無料である。また、法人会員を募っている。平成16年6月の時点で、会員数は約2,300人である。

組織構成は総会、理事会、運営委員会、幹事会及び事務局から成る。具体的活動は、「エネルギー・環境部会」、「教育部会」及び「国際問題部会」の三部会のもとで行われている。現在のところ、エネルギー・環境と教育問題を重点的に取り上げている。支部組織は長崎、長崎県奈良尾及び茨城県にあり、各支部独自の活動を行っている。現在、幾つかの地域で支部を立ち上げるべく計画中で

ある。組織の詳細はIOJのホームページを参照されたい[1]。さらに、他のNPO法人等との協力をも視野に入れて活動している[2-10]。

4. 具体的活動

4.1 ホームページによる情報発信

IOJ活動の柱の一つはインターネットを利用した情報発信と会員や一般の方々の意見集約である。現在、ホームページ（HP）上ではIOJの目的、活動、組織等はもちろん、会員募集、支部活動、IOJだよりなどIOJ全体に関わる情報が発信されている。また、エネルギー・環境部会と教育部会各々の取組を載せて、会員や広く一般からの意見や質問を待っている。

4.2 エネルギー・環境部会の活動

エネルギー・環境部会ではHP上で、次の三つの項目のもとに会員の考えを掲載している。

- Recent Topics
- わたしの、わたしたちの主張
- 基本講座

IOJの活動のイメージを示すために、表1と表2にRecent Topicsと基本講座のタイトルを示す。

表1 エネルギー・環境部会のRecent Topicsタイトル一覧

-
- ・原子力の安全確保体制の構築に向けた提案
- ・エネルギー基本計画——わが国におけるエネルギーの消費量
- ・米国大停電の訳
- ・原子力利用による水素製造への取り組み
- ・ITERについて
-

表2 エネルギー・環境部会の基本講座タイトル一覧

- ・「原子力安全」はどうやって担保できるのですか？
——どれだけ安全なら納得か——
- ・核燃料サイクルの必要性
- ・各種発電方式とその特徴
- ・原子力とトリレンマ
-

また、わたしの、わたしたちの主張には、「原発トピックに発展的議論を〜踏み絵から考える日本の問題〜」が掲載されている。

4.3 教育部会の活動

教育部会の活動はIOJの設立目的からも明かのように、エネルギー・環境部会の活動と密接に結びついているが、教育という観点から原子力技術に対する風土を変えていくので、より長期的視野に立つとともに、若年層を対象とする活動が主となる。

HP上では教育部会もエネルギー・環境部会と同様の項目のもとに会員や一般からの意見や知見の発信を行っている。表3、表4及び表5に各々、Recent Topics、わたしの、わたしたちの主張、基本講座のタイトルを示す。

表3 教育部会のRecent Topicsタイトル一覧

- ・NPOが何を貢献できるか
- ・本当の省エネルギー
- ・学力世界一のフィンランドに学べ
- ・不登校は子供の問題か？親の問題か？

表4 教育部会「わたしの、わたしたちの主張」タイトル一覧

- ・しぼる
- ・単語の木、ツリーを利用した英単語記憶法
- ・社会における人間の最小単位
- ・「自然」とは何ですか？
- ・教育に関して思うこと
- ・教育の原点は？

表5 教育部会の基本講座タイトル一覧

- ・若者の知力増強を試みる
- ・人間を理解する
-

教育部会では、このようなHP上の情報発信に加えて、現行の教育のあり方についてのアンケート調査や会員が地域の教育活動に直接関わる取組の検討等を進めている。その一つの事例がエネルギー・環境部会との協力で進めている「知求ク

ラブ——知の発見講座」の取組である。これは会員がエネルギーや環境に関わる課題について実験等を交えて若年層に働きかけるものである。

4.4 知求クラブ活動

上に述べた趣旨に沿って、地球クラブの活動、「知の基本講座」が平成16年2月と3月に、いずれも東京のIOJ本部において開催された。また5月には長崎県奈良尾町の奈良尾中学校においても開催されている。

このうち2月の「知の発見講座シリーズ」は「とっても身近！発見 エネルギーと環境問題」というキャッチフレーズで、土曜日の午前中3日、また、3月の講座は「とっても身近！エネルギー 記憶の不思議！単語の木」ということで、連続5日間、実験デモンストレーションや講演が行われ、参加した高校生、中学生また保護者の方々に大変好評であった。特に3月の講座では、エネルギーに関する講演に加えて、(株) 普遍学国際研究所が独自に開発した英単語記憶のツリーをパソコンを使って学習するプログラムを実施したために、講座に幅が加わったといえる。

奈良尾中学校では、このプログラムをより系統的に実践した。

表6に第1回と第2回の知の発見講座シリーズのタイトルを示す。

表6 第1回及び第2回の知の発見講座シリーズのタイトル一覧

第1回：

- ・未来のエネルギー——中学生にもわかる核融合のはなし／自然を守りながら暮らせます
- ・高温超電導のあれこれ
／地球温暖化とは何でしょう
- ・電気はこんなふうには作られます
／野生動物の危機とわたしたち

第2回

- ・英単語攻略
／生活に必要なエネルギー
- ・英単語攻略
／核エネルギーの利用
- ・英単語攻略
／発電のしくみ（原子力・火力）
- ・英単語攻略

／放射能って何でしょう

・英単語攻略

／核融合の原理

4.5 理科大好きコーディネーター活動

このように知求クラブの知の発見講座シリーズが好評であることを受けて、教育部会はエネルギー・環境部会の協力を得て、(独)科学技術振興機構の「地域科学技術理解増進人材の活動推進・人材育成事業(理科大好きコーディネーター活動支援)」プログラムに急遽応募することとした。関連各位の支援協力を得てこの度、企画実施申請書が認められた。

平成16年度は知の発見講座開催の経験を生かして茨城県等を中心に3回程度、実験と講義の会の開催を予定している。この理科大好きコーディネーター・プログラムの企画としては、

- 1) 霧箱内の放射線の実験と放射能のお話
- 2) 磁石が超電導体の上で浮き上がる実験とお話
- 3) 核融合とエネルギーのお話
- 4) クイズで学ぶエネルギー・放射線等を考えている。

3. まとめと今後の取組

本稿ではIOJ(日本の将来(あした)を考える会)の設立の経緯と現在の活動状況について報告した。原子力及び科学技術を取り巻く風土を改善するために、第三者的専門家集団として実行可能な事柄は、まだまだたくさんある。今後、会員や支援してくださる方々の意見を集約して、積極的な活動方針に反映できればと考えている。

参考文献

- [1] IOJ ホームページ, <http://www.ioj-japan.org>
- [2] 宮 健三、青野千晶、「NPOの現場から:エネルギー問題に重点をおき、11月に発足」、原子力eye, vol.49, 2003, pp.30-31.
- [3] 青野千晶、「原子力政策のプロセスが見えるしくみを」、ibid. vol.49, 2003, pp.30-31.
- [4] 青野千晶、釜田真佐子、「学校教育への危惧を行動に」、ibid. vol.50, 2004, pp.54-55.
- [5] 村垣 孝、「米国のNPO活動を検証—原子力エネルギーに関する市民レベルの理解のために」、ibid. vol.50, 2004, pp.62-63.

- [6] 石川智子、「教育における公の限界へのアプローチ」、ibid. vol.50, 2004, pp.30-31.
- [7] 衛藤基邦、「世界と自分の科学的論理的理解に向けて」、ibid. vol.50, 2004, pp.34-35.
- [8] 後藤裕宣、「私のIOJ—日本の原子力をトキにしないために」、ibid. vol.50, 2004, pp.56-57.
- [9] 松永一郎、「2020年、そのときあなたは?」、ibid. vol.50, 2004, pp.56-57.
- [10] 田中利幸、「自分の感性を磨こう」、ibid. vol.50, 2004, pp.64-65.